

高槻市立保育所の保育内容及び運営について

令和7年(2025年)5月

高槻市子ども未来部保育幼稚園総務課

目次

はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
1 めざす子ども像	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
2 保育内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
3 保育のねらい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
4 保育内容（生活）		
(1) 0歳児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
(2) 1歳児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
(3) 2歳児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
(4) 幼児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 8
5 保育内容（あそび）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
(1) 0歳児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
(2) 1歳児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 12
(3) 2歳児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 13
(4) 幼児 ねらいと配慮	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 13
6 保育の実施上の配慮事項	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
(1) 保育に関わる全般的な配慮事項	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
(2) 乳児保育に関わる配慮事項	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 15
(3) 1, 2歳児の保育に関わる配慮事項	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 15
(4) 幼児の保育に関わる配慮事項	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 16
(5) 異年齢保育に関わる配慮事項	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 16
7 年間行事	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 17

はじめに

令和9年4月に高槻市立磐手保育所を民間事業者に移管するにあたり、「高槻市立保育所の保育内容及び運営について」をまとめました。

高槻市立保育所の保育内容については、高槻市人権保育基本方針をもとに、一人一人を大切にし、子どもを肯定的に受け止め接することを基本に、社会を生きぬく強い心と主体的に活動する意欲を育むことをめざして保育を行っています。

1 めざす子ども像

- (1) 心身ともに健康な子ども
- (2) 主体的に生活できる子ども
- (3) 自分も友だちも大切にできる子ども
- (4) 仲間の中で生き生きと遊ぶ子ども
- (5) 豊かな感性をもち表現できる子ども

2 保育内容

【0・1・2歳児保育】…育児担当制を実施しています

保育所は第二の家庭として安心して生活できる場所です。人間関係の基盤として、いつも決まった保育士等が世話をすることで、保育士等を信頼し愛着を深め、子どもの情緒が安定します。その中で下記のような育ちをはぐくみます。

- ・自分のことは自分でしようという気持ちをもつ
- ・人との関わりを心地よく感じて、自己主張したり友達への関心をもったりする
- ・体験したことをしぐさや言葉で表現する
- ・いろいろな体験を通して、体を動かしたりイメージを持って遊んだりする楽しさを知る

【3・4・5歳児保育】…自分で選択できる遊び環境を大切にしています

一人一人が主体的に取り組み、集団の中で友達と協力したり意見がぶつかり合ったりしながら、思いやりの気持ちやコミュニケーション力を育てていきます。その中で下記のような育ちをはぐくみます。

- ・基本的生活習慣が自立し、見通しをもって行動する
- ・自尊感情をもち、人と豊かに関わり、コミュニケーション力を身につける
- ・身近な自然現象や社会事象に関心をもち、豊かな感性や知的好奇心を高める
- ・自分なりの言葉で表現し、相手の話も聞こうとする態度を身につける
- ・いろいろな体験を通して、表現する力や想像力を身につける
- ・社会のルールや物事の善悪がわかり、規範意識をもつ

3 保育のねらい

(1) 0歳児

- 安定した保育所生活の中で、生理的欲求が満たされ、大人への関心や快・不快の感情を示す
- 安定した保育士等との関係の中で、身の回りのことや人に関心を持ち、自ら動こうとしたり、

発語しようとする気持ちを持つ

- 離乳が進み、歩行が完成する

(2) 1歳児

- 安定した保育士等との関係の中で、自分の気持ちや欲求を表す
- 自我の芽生えと共に、自分の思いを簡単な言葉で表現しようとする
- 生活や遊びの中で、自分でしようとする意欲を持つ

(3) 2歳児

- 安定した保育士等との関係の中で、身の回りのことを自分でしようとする
- 「なぜ」「どうして」等の疑問が増え、言葉が豊かになる
- 経験したことを基にイメージを広げ、模倣やごっこ遊びを通して友だちとの関わりを楽しむ
- 基本的運動機能を獲得する

(4) 3歳児

- 自分からいろいろな遊びに目を向け楽しむ
- 遊びや生活に必要な約束やきまりを知る
- 自分の思いを表現することを楽しむ
- 保育士等や気の合う友だちと一緒に好きな遊びを楽しむ

(5) 4歳児

- 道具の扱い方に慣れ、道具を使って表現する等、目的をもって遊ぶ
- 小グループで役割遊びや、ルールのある遊びを楽しむ
- 友だちに関心を持ち、相手に思いを伝えたり、聞こうとしたりする

(6) 5歳児

- 遊びに必要な物をつくり、遊びを展開させていく
- 一人一人が力を発揮し、お互いに認め合える仲間関係を築く
- 友だちと一緒にルールのある遊びを楽しんだり、必要に応じてルールを変えたり作ったりして遊びを展開していく
- 自分のイメージを言葉や動作で表現し、友だちと共有して遊ぶ楽しさを味わう

4 保育内容（生活）

(1) 0歳児 生活のねらいと配慮

0歳児 食事のねらい

- 落ち着いた雰囲気の中で決まった保育士等が丁寧にに関わり、いろいろな食べ物の味や感触に慣れる
- 子どもが自ら食べ物を取り込もうという気持ちを育てる

(0歳児 食事の配慮)

- ・ 次にする事が視覚からも分かるように、授乳時間になったら保育士等はエプロン・三角巾をつける。授乳することを言葉でも伝える。
- ・ 日課にそった見通しが持てるよう、基本的にいつも同じ保育士等と、同じ順番、同じ場所、同じ手順で授乳をする。(育児担当制保育)
- ・ 冷凍母乳を希望する保護者がいる場合、対応する。
- ・ 授乳時には、抱いて目と目を合わせ、語りかけながらゆったりとした雰囲気です授乳をする。飲み具合をみて、ミルクの温度、乳首の穴の大きさ等、家庭とも連携をとりながら調整をする。
- ・ 一人一人の体にあわせて、背もたれや足置きを用意して、姿勢を保持して食事ができるようにする。(背中とお尻とかかどがつき、膝が90度になっていることを確認する)
- ・ つまみ食べ、スプーンへの移行、介助スプーンとの併用等、個々の発達の段階を見ながら進めていく。
- ・ 離乳食の進行は、一人一人の食事の様子を見ながら、家庭・栄養士・給食調理員と連携をとりながら進めていく。初めての食材は家庭で試してから保育所で食べ始める。個人差はあるが、離乳食は1歳6ヶ月頃の完了を目指し、幼児食へと移行していく。
- ・ 唾液の分泌を促すため、始めにお茶やスープを飲ませる。
- ・ 個々の食事の様子をみながら、1対1(子ども)または1対2(子ども)で食事の介助を行う。

0歳児 排泄・着脱のねらい

- オムツが汚れていることを不快に感じ、きれいなオムツに替えてもらったことを心地よく感じる
- 着替えることが心地よいと感じ、見通しをもち、自分でしたいという気持ちが芽生える

(0歳児 排泄・着脱の配慮)

- ・ 排泄の間隔を把握しながら常に清潔で気持ちのよい状態で過ごせるようにする。
- ・ 決まった保育士等が決まった手順で着替えを行い、子どもが見通しをもって自分でしたいという気持ちを育てる。
- ・ オムツ交換時には、感覚器官の発達を促すためやさしく声をかけながら、おなかや足をなでたりする。お尻をきれいにする際は、足首を持たずにお尻を支えて持ち上げるようにする。高月齢児は「お尻をあげてね」と声をかけたりしながら、子どもが自分でお尻をあげようという気持ちを促し、交換後は「気持ちよくなったね」と心地よさを言葉で知らせる。
- ・ 子どもと視線を合わせ、これからすることを「～するよ」と言葉で知らせる。オムツ交換を嫌がる子には、おもちゃ等でごまかさず、「オムツ替えてきれいにしようね」と言葉で伝えていく。
- ・ 着脱は決まった場所、決まった手順で行う。
- ・ オムツ交換時、個々の交換用シート(布オムツやタオル)を敷いてからオムツ交換をする。
- ・ 着脱時は子どもが自分で腕を上げ足を出すのを待って、着替えに気持ちが動くように配慮す

る。

- ・ オムツ交換をする場所は、周りから見えない場所で行う。
- ・ 歩行自立後は低い交換台を使用し、上着の着脱やズボンをはく時は座って行う。自分で足を入れようとしたり、引き上げようとする気持ちを大事にし、見守ったりそっと援助したりしながら、意欲や発達を促していく。
- ・ 子どもが着脱に協力してくれたことに対して「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。

0歳児 睡眠のねらい

- 一人一人の生活リズムや、くせを把握し安心して眠れるようにする

(0歳児 睡眠の配慮)

- ・ 睡眠中の子どもの顔が常に保育士等から見えるようにする。SIDS予防のため、時間を決めて睡眠チェック（呼吸・顔色の確認）を行いつつ伏せ寝にしないようにする。顔色の判断ができるように、室内は暗すぎないように配慮する。
- ・ 枕元に、ハンカチ、衣類等、窒息事故の起こるような物を置かない。
- ・ 12～18か月頃、一度寝に無理なく移行する。
- ・ 布団を敷く場所は子どもが見通しを持てるように、同じ場所に敷く。

0歳児 ことば認識・社会性情緒のねらい

- 自分の要求や快・不快などの気持ちを泣いたり声を出したり身振りや片言で、身近な人に伝えようとする

(0歳児 ことば認識・社会性情緒の配慮)

- ・ 子ども一人一人の気持ちを受け止め人間関係の基礎となる愛着関係を育み、友だちに関心をもたせる。
- ・ 子どもの気持ちを丁寧に受け止め興味や関心を言葉に置換え発語につなげていく。
- ・ 子どもの姿を否定的に見ない。
- ・ 子どもと接する時は、必ず正面に向かい、しっかり目をみつめ安心感を与えるようにし優しくゆったりとした声かけをして関わるようにする。
- ・ 大人の言葉や表情がわかるようになると、言葉と動作の結びつきがわかるよう繰り返し働きかけていく。（「ダメ」等の禁止の言葉でなく、肯定的な言葉に置き換えて伝える）
- ・ 指差しが出てきたらよりいっそうの丁寧な言葉かけをする。子どもの指差しにはいろいろな意味があるので、上手に保育士等が汲み取り言葉に置換える。子どもへの言葉かけも豊かなものにする。
- ・ じっくり遊べるようになると、他児からの関わりが邪魔されたと感じ、ひっかいたり噛みついたりすることがあるので、少人数での遊びを保障する。また、気持ちを言葉に置換えることを丁寧に繰り返し、子どもの気持ちを言語化してお互いの内面の気持ちに気付かせていく。

0歳児 感覚・運動のねらい

- いろいろなものを見たり触ったりして感覚の働きを豊かにする

- 身体を動かす心地よさを味わう

(0歳児 感覚・運動の配慮)

- ・ 発達に応じたおもちゃを用意し、自分から物に関わる力を育む。
- ・ 運動発達を促す。
- ・ 保育室で過度の騒音を避ける
- ・ 子どもの要求を早くつかみ、しっかりと対応する。
- ・ 身の回りにある物をたえず清潔にする。
- ・ 保育士等の衣服や室内の装飾に留意する。
- ・ 探索活動が広がる時期は安全への配慮をする。
- ・ 触る、いじる等、目と手の協応活動が盛んになるようにおもちゃで働きかける。(おもちゃは音色や感触のよい、色の美しいもの)
- ・ 何にでもつかまって立とうとしたり、転がったりするので、安全に十分留意する。
- ・ おもちゃや環境は次の発達を見通し、個々の成長発達を助けるものを選び設定する。

(2) 1歳児 生活のねらいと配慮

1歳児 食事のねらい

- 正しい姿勢でスプーンを使って自分で食べようとする気持ちをもつ

(1歳児 食事の配慮)

- ・ 食べてみようという意欲を大切に育てる(子どもに合わせて量を加減し、無理強いはしない)。
- ・ 子どもの様子を見て、1対2(子ども) 1対3(子ども)で食事介助をする。
- ・ 日課にそった見通しがもてるよう、いつも同じ保育士等と同じ順番、同じ手順で食事をする。
- ・ 子どもがひと口量を知るために、スプーンに食べやすい量をのせて持たせたり、つまんで食べられるようにする。
- ・ 椅子が身体に合わない子には、背もたれや足置きを用意する。(背中と椅子の隙間があかないように。かかとが床についていること。)

1歳児 排泄のねらい

- 尿意を感じたら動作や言葉で知らせようとする

(1歳児 排泄の配慮)

- ・ 一人一人の排尿の間隔を把握する。
- ・ 育児担当制保育を進める中で、子どもの姿をしっかりと把握し、様子や仕草、サインを軽くあしらったり、見逃したりしないようにする。
- ・ 知らせに来た時は、誉めるとともに、次につながるような言葉がけをする。
- ・ 濡れたことを知らせてきた時は、「パンツを替えようね」とプライドを傷つけないように言葉かける。

1歳児 着脱のねらい

- 自分でパンツやズボンがはける

(1歳児 着脱の配慮)

- ・ 自分でやりたいという気持ちを育て、見守りながら援助する。
- ・ 毎回同じ保育士等が同じ手順（園で統一する）で着脱し出来ることは見守り、出来ないことは「お手伝いしようか」と援助する。また、着脱に関心を持たせるように「オムツ替えようね」「ズボン履くよ」と着脱していることに目を向けさせる。
- ・ パンツ、ズボンは着脱用椅子に腰掛けて履く。履く時は、パンツやズボンを見るように促す。（ズボンやパンツの着脱時に座る椅子には、個人用タオルを敷いたりアルコール消毒をする等清潔を保つ）

1歳児 睡眠のねらい

- 規則的な生活リズムの中で、心地よく眠り目覚める

(1歳児 睡眠の配慮)

- ・ 安心して眠れるような静かな雰囲気作りをする。
- ・ 自分の場所がわかり安心して眠れるよう、布団を敷く場所は決めておく。

1歳児 清潔・安全のねらい

- 身の回りの清潔な環境の中で安心して過ごす

(1歳児 清潔・安全の配慮)

- ・ 鼻汁が出ている時は、「お鼻出ているから拭いてもいい？」等、必ず声をかけ、気付かせてから援助をする。
- ・ 手洗い、歯磨きが身につくように個々の状態に合わせてすすめていく。

(3) 2歳児 生活のねらいと配慮

2歳児 食事のねらい

- 意欲的に食べる
- いろいろな食べ物を食べ、味覚の幅を広げ、食べ慣れない味も食べようとする

(2歳児 食事の配慮)

- ・ 食べてみようという意欲を大切に育てる。（子どもに合わせて量を加減し無理強いはいしない）
- ・ 子どもの様子に合わせて 1対3（子ども）または1対4（子ども）から始めて、3歳児へ移行できるように食事介助をする。
- ・ 日課にそった見通しがもてるよう、いつも同じ保育士等と同じ順番、同じ手順で食事をする。

2歳児 排泄のねらい

- 自分で行きたい時に、排泄する

(2歳児 排泄の配慮)

- ・ 一人一人の排泄の間隔をつかみ、無理強いせず気持ちに添って促す
- ・ パンツやズボンは保育室ではなく便器の前でおろし、完全に脱がない。
- ・ 決まった時間に行かせるのではなく、子どもの意思に任せるようにする。但し、散歩や午睡前は子どものリズムをつかみ声かけをする。
- ・ 布パンツに移行する時期は、個人の状況に合わせて行う。

2歳児 着脱のねらい

- 一人で脱いだり着たりできるようになる

(2歳児 着脱の配慮)

- ・ 子どもが意欲的に着脱するように、一人一人の発達に合った援助をしていく
- ・ 着脱時には上着の着脱をすませてからパンツやズボンを着替えるなど、裸にならないように知らせる。
- ・ 衣類の前後や靴の左右を意識させていく。
- ・ ボタン・スナップがある服を脱ぎ着する時は同じ手順でする。
- ・ 室内やトイレ等、床に座って着脱するのは衛生面で望ましくないので、パンツ、ズボンの着脱用の椅子をトイレの中や着脱コーナーに設置する。着脱用の椅子は清潔を保つようにする。

2歳児 睡眠のねらい

- 規則的な生活リズムの中で心地よく眠り目覚める

(2歳児 睡眠の配慮)

- ・ 安心して眠れるよう静かな雰囲気作りをする。
- ・ 見通しをもって、安心して眠れるように布団を敷く場所は決めておく。

2歳児 清潔・安全のねらい

- 促されて清潔にしようとする
- 危険なことが少しずつわかるようになる

(2歳児 清潔・安全の配慮)

- ・ 鼻汁が出ている時は、「お鼻出ているから拭いてもいい？」等、必ず声をかけ、気付かせてから援助をしたり、自分で拭くように促す。
- ・ 歯磨きや手洗い等、清潔が保てるように個々に応じた援助をする。

(4) 幼児 生活のねらいと配慮

食事のねらい

○ 食事のマナーを身につけ友だちと楽しく食べる

	3歳児	4歳児	5歳児
食事の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べることが楽しいと感じられるような雰囲気づくりをする ・ 食べ物に興味や関心が持てるような言葉かけをする ・ 食事の時間は20分を目途にし、一定時間で食べられるように食事の量や好き嫌いに配慮する ・ 援助されるなかで、自分の食べられる量を知ることができる ・ 正しい持ち方でスプーン、フォークが使えているか、ひと口量の調節ができていないか確認する ・ 食事に必要な基本的な習慣（食器を持って食べる・食前食後の挨拶をする・口を閉じて咀嚼する等）が身につくように指導する（伝える） ・ 姿勢を保持して食事ができているか確認をする。（姿勢保持ができていない時は椅子を調節する等配慮する） ・ こぼした時には、自分で気づくような声かけをし、後始末がしやすいような工夫をする。（身近にふきんやゴミ箱を置く等） ・ 他人が見て不快な食べ方にならないよう気付かせる ・ 苦手なものでもバランスよく食べられるような声かけをする ・ お箸への移行は一斉には行わず、5歳の誕生日を迎えた子を基準に個々の指の発達をみて順次移行していく（移行までに箸を使う遊びを取り入れていく） ・ 自分に合った量を知り、苦手な物は減らしてほしいことを伝えられているか見ていく 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 好き嫌いせず、一定時間内に食べられているか見ていく ・ 食べ物と身体の関係に関心を持てるような取組みをする ・ 調理活動や栽培活動等、食べることへの興味や関心をもてるようにする ・ 食事の準備や後片付けを手伝ってもらう ・ 箸を正しく使えているか確認する

排泄のねらい

- 生活の中で見通しを持ち、自分で判断してトイレに行く

	3歳児	4歳児	5歳児
排泄の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を尊重しながら見守ったり働きかけたりする ・一斉に行かせるのではなく、個々の排泄の間隔で自分で判断して行けるようにする (集会前や散歩前等、配慮として必要な子には個別に声かけをする) ・パンツ、ズボンを全部脱がずに排泄できるように具体的に仕方を知らせる <ul style="list-style-type: none"> ・排便後の後始末の仕方を具体的に知らせ援助する ・排泄後は手洗いをするよう知らせる ・トイレの履物をそろえるように伝える <ul style="list-style-type: none"> ・大便の後始末ができていないか確認し必要に応じて援助する ・相手に不快を与えない配慮の仕方を伝える (スリッパを揃える・水を流す・ノックをする等) 		

着脱のねらい

- 状況 (気温・汚れ等) に合わせて衣類の脱ぎ着をし、服装を整える

	3歳児	4歳児	5歳児
着脱の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を認める中で達成感を持たせ自信や意欲につなげていく ・着脱がひとりでできない子には着脱の仕方を丁寧に知らせていく ・上着の着脱をすませてからパンツやズボンを着替えるなど、裸にならないように知らせていく ・シャツのすそをズボンに入れることを伝える ・服や靴の左右を意識できるような声かけをする ・ボタンやスナップの留め方を必要に応じて知らせる ・表返しやたたみ方を知らせる ・戸外に出る時は必要な身支度ができるように環境を整え、身支度の仕方を知らせる ・身だしなみを意識できるような環境を整え (鏡を用意する等)、自分で意識できる言葉がけをする ・動きやすい身に合った衣服を用意してもらう ・出来るだけ、着替えるスペースは周りから見えない場所に設定する <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の調節ができるように促していく ・一人で着脱ができるように見守る ・靴が正しく履けているか、服の表裏が意識できているか確認する ・表返しや衣服がたためているか確認する ・自分で考えて衣服の調節ができていないか確認する 		

睡眠のねらい

- 休息の意味がわかり、一定時間休息する

	3歳児	4歳児	5歳児
睡眠の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して眠れるよう静かな雰囲気づくりをする ・一人で入眠できるよう見守る ・落ち着いて眠れるよう布団は決まった場所に敷く ・他の子の布団を踏まずに自分の布団に入れるよう敷き方を工夫する（大人も踏まない） 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・午睡の準備や片付けを手伝ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学を見通して適切な時期に午睡をやめて午睡のない生活リズムに慣れていけるようにする

清潔のねらい

- 健康な生活に必要な習慣を身につける

	3歳児	4歳児	5歳児
清潔の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔に過ごすことの心地よさを感じられるよう、毎日丁寧に働きかけていく ・手洗い時に袖をまくる事や水の量、石鹸の使い方、手の洗い方等を知らせる ・喉のうがい（ガラガラ）や口腔内のうがい（クチュクチュ）の違いを知らせる ・鼻をかむのを援助する時は、口を閉じて片方ずつ押さえて「フンッ」をするように促す ・くしゃみや咳をする時は手で口を押さえたりティッシュを使うことを知らせる ・歯の大切さを伝え、歯磨きの意味を理解してできるようにする（3歳冬頃から） 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー等身の回りの整理整頓をするように知らせる ・身だしなみに気づけるよう手助けをしたり、声かけをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の前にテーブルを拭いたり、食後に掃除をして生活する部屋をきれいにすることを知らせる

安全のねらい

- 安全な生活に必要な習慣や態度を身につける

	3歳児	4歳児	5歳児
安全の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じ、具体物を通して丁寧に安全な過ごし方を知らせる ・保育所内外の危険箇所や危険な場面を把握し、職員間で話し合う。また子どもたちにも安全な生活、遊び方を定期的に知らせる（園庭での遊び方、散歩での約束、一人で勝手に園外に出ることの危険性等） ・安全に遊んだり、生活するためにルールを知り、守って行動することの大切さを伝える ・危険なこと（高い所に登る・とがった物を持って走り回る等）について知らせる ・生命や自然の大切さを知らせる ・道具の安全な扱い方を伝える ・交通ルールを知らせる ・災害時の避難の仕方を知らせる ・自己と他の衝突やトラブル・葛藤を繰り返しながら気持ちをコントロールしていくことを身につける時期なので、基本的には見守りながら、社会的ルールや危険・安全の認識についてしっかり伝えていく 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・身体の異常があった時は自分で訴えられるように促していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な事がわかり、約束を守って安全な行動がとれているか確認する ・交通ルールを理解し守れているか確認する ・自分や友だちの身体の異常を知らせることができるように促していく

5 保育内容（あそび）

(1) 0歳児 あそびのねらいと配慮

0歳児 あそびのねらい

- 穏やかな環境のなかで、ゆっくり動くモバイルを追視したり、手触りのよいおもちゃを握ったり、振ったり、投げたり、口に入れて確かめたりするなど五感を使って遊ぶ
- 座って両手が使えるようになったら、たたく、引っ張る、積み上げる、重ねる、穴に物を落とす等目と手の協調あそびを繰り返し楽しむ
- 立って遊べるようになったら、壁面等のおもちゃを自分から触りに行き、回す、引っ張る、扉をあける、カーテンをくぐる等、腕を縦、横、上に伸ばしたり、手首や指先を動かして十分に探索遊びを楽しむ
- 保育士が歌うわらべうたや手遊びを聞いたり、模倣したりすることを楽しむ

(0歳児 あそびの配慮)

- ・ 一人一人の発達課題に応じたおもちゃを用意し、発達を促す環境を整える。(0歳児の発達

を促す遊びとして、追視する・握る・振る・たたく・つまむ・引っ張る・積む・重ねる・穴に物を落とす・投げる・ひっくり返す等のあそびがあり、生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き感覚の働きを豊かにし、手や指を使って遊べるようにする)

- ・ 立って遊べるようになったら壁面のおもちゃを用意し、回す、引っ張る、扉をあける、カーテンをくぐる等、腕を縦、横、上に伸ばしたり、手首や指先を動かしたりして遊べる環境を用意する。
- ・ 探索遊びが繰り返しできる時間と環境を保障する。
- ・ 子どもが遊びや生活のなかで共感を求めて、保育士の顔を見ることを予測し、傍で見守ったり、目が合った時には笑顔で「見てたよ」というアイコンタクトをしたり、「じょうずだね」「できたね」等声をかけるようにする。そのやり取りを通して満足感や充実感とともに自分への自信を高め、意欲的に環境と関わる力を育んでいく。
- ・ 絵本やわらべうたを子どもに見せる時は、できるだけ1対1が望ましいが、複数の子と向き合う時でも、一人一人の眼をみて表情豊かに反応をみながら関わる。
- ・ 育児担当制保育で食事、着脱等生活の部分は継続して援助するために、できるだけ同じ保育士等が担当するが、あそびの部分は担当に関係なくみんなで関わるようにして、一人一人の運動面での発達を把握する。

(2) 1歳児 あそびのねらいと配慮

1歳児 あそびのねらい

- ひも通しや、型はめ、積み上げ遊び、並べる遊び、手や体の機能を高めていく遊びを繰り返して楽しむ
- 模倣をしながら、簡単な見立て遊びを楽しむ
- 色々な形や色のフェルトやお手玉、つながったチェーリングやビーズ等のおもちゃを食材や道具に見立てて遊ぶことを楽しむ
- ひも通しや並べるなどの構成遊びをしながら、色分けをしたり、色へのこだわり等秩序感が芽生える

(1歳児 あそびの配慮)

- ・ 発達や興味・関心に合わせて様々な構成あそびができるように、種類、数等を考慮しじっくり遊べる時間と環境を保障する。
- ・ この時期は、おもちゃの取り合いが多くなってくると共に、引っかきや噛みつき等のトラブルも多くなってくる。そのため遊ぶ時の人数やおもちゃの数に配慮するとともに、常に子ども心身の動きを注意深く観察し対応することを心がける。また、取り合いになった時はトラブルととらえず、先に遊んでいた人を優先するなど、ルールを決め、「あとでかしてね」「まってね」「はいどうぞ」等のやり取りのモデルを保育士等が示し、その繰り返しの中で、待っていたら貸してもらえ。「はいどうぞ」と言ってかしてあげると「ありがとう」と喜んでもらった等の経験を繰り返す中で、気持ちのよい関わり方を学んでいく機会をとらえる。
- ・ 遊びで準備するおもちゃは素材や色、大きさなど発達に応じたものを用意する。

(3) 2歳児 あそびのねらいと配慮

2歳児 あそびのねらい

- 友だちとの簡単な役割遊びを楽しむ
- 積木や構成遊びなど、継続的にひとつの遊びをじっくり楽しむ
- 色分けや数の認識、並べ方など秩序感をもって遊ぶ

(2歳児 あそびの配慮)

- ・ 役割遊びは、自我が確立し、自分以外の人との関係を理解していく重要な遊びであり、身の回りで経験したことを自分なりに表現する遊びのひとつでもある。またその他の遊びの中でも試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、見守り、援助をするとともに、継続的に遊べるよう工夫する。
- ・ おもちゃなどは、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、様々な遊びが楽しめるように環境を整える。(ごっこ遊び・パズル、ひも通し、ペグ挿し等の操作遊び、積み木やマグネット並べ等の構成あそび、描画等の表現遊び等)

(4) 幼児 あそびのねらいと配慮

幼児 あそびのねらい

- 自尊感情をもち、人と豊かに関わり、コミュニケーション力を身につける
- 身近な自然現象や社会事象に興味・関心をもち、豊かな感性や知的好奇心を高める
- いろいろな体験を通して、表現する力や創造性を身につける
- 体を十分に動かして遊ぶ
- 主体的、意欲的に遊び、試したり、工夫したり、友だちと相談しながら遊びを創りあげる
- 友だちとイメージを共有して遊びを展開することを楽しむ

(幼児 あそびの配慮)

- ・ 子ども自身が遊びを選択できるよう、子どもの興味・関心に応じた遊び環境を整える。なお、室内の遊び空間として、構成遊び(積木等)、机上遊び(制作・パズル・ボードゲーム・ひも通し等)、役割遊び(お世話遊び、台所遊び、お店屋さん)、絵本コーナー等のスペースを設定し、それぞれ遊びの状況に応じてスペースは拡張することは可能である。又、積木あそびは、継続して遊べるよう壊さずに残せる環境がある事が望ましい。
- ・ 戸外遊びと室内遊びの時間を保障する。(じっくり遊び込める時間の保障をする)
- ・ 毎日の活動の見通しが持てると、生活に秩序性ができ主体的に過ごせるので、基本的に毎日の日課は同じにする。
- ・ 協働(共同)で取り組むことや友だちと同じ場面を共有することで、仲間関係を深めルールを知り社会性を育てるという意識をもつ。
- ・ 「～させる」ではなく「～したい」という気持ちを大事に、主体的に活動できるよう援助をする。
- ・ あそびを通して、友だちとイメージを共感、共有したり、認識力、豊かな想像力を育ててい

くことを意識する。また、友だちと一緒に遊びを展開していく中で、得意なことを認められ自信を持てたり、仲間意識や社会性、コミュニケーション力が育てられるような意図をもって援助をしていく。

- ・ 子どもが知りたいと思ったことを調べることができるような環境の工夫をする。
- ・ チャレンジする心を育てるために「失敗しても大丈夫」と見守り、友だちや保育士等に支えられて再度チャレンジする気持ちになれるよう見守る。
- ・ 異年齢保育の場合、制作活動は複数の活動を準備する等、個人差に応じて制作できるよう援助の仕方や制作過程を工夫して、子どもが自分のレベルに応じて選択できるようにする。ボードゲームやカードゲーム等、ルールの難易度が違うあそびを複数準備し、ルールを見たり、教えあって学んでいくことも想定して準備する。
- ・ 出したおもちゃや道具は、使い終わったら元の場所に戻せるよう、片付ける場所は固定しておく。視覚支援が必要な場合はおもちゃの写真を棚に掲示する等して対応する。
- ・ 道具の使い方は、見て学んだり子ども同士で継承できる部分もあるが、ハサミの使い方、渡し方など必要に応じて安全な扱い方を定期的に保育士等から子どもたちに伝える事も必要である。
- ・ 戸外の遊具の安全な使い方やルールは、定期的に子どもたちに伝える。
- ・ 一人一人の課題を把握し、課題の克服のためにどんな遊びや支援が必要なのかを考え、保育を計画していく。

(異年齢保育に関わる配慮事項)

- ・ 3, 4歳児は5歳児との関わりのなかで、刺激を受け模倣することで育ちを引っ張ってもらえるので、自然な関わりを大事にする。
- ・ それぞれの年齢の発達の基本を理解しながら、異年齢の中で子どもたちがその年齢にふさわしい力を発揮できるように保育士等は見守り、援助すること。援助する際は、保育士等が「教える」のではなく発達を促すために「援助する」という気持ちを持って接すること。

6 保育の実施上の配慮事項

保育士等は、一人一人の子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、ねらいや内容を柔軟に取り扱うとともに、特に次の事項に配慮をして保育する

(1) 保育に関わる全般的な配慮事項

- ・ 子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助すること。
- ・ 子どもの健康は、生理的、身体的な育ちとともに、主体性や社会性、豊かな感性の育ちとがあいまってもらたされることに留意すること。
- ・ 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助すること。
- ・ 子どもの入所時の保育に当たっては、できるだけ個別に対応し、子どもが安定感を得て、次第に保育所の生活になじんでいくようにするとともに、既に入所している子どもに不安や動揺を与えないよう配慮すること。

- ・ 0, 1, 2歳児については、一人一人の子どもの成育歴の違いに配慮しつつ、欲求を適切に満たし、子どもの情緒の安定や愛着関係の築きのために特定の保育士等が応答的に関わるように努めること。(育児担当制保育)
- ・ 子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮すること。
- ・ 子どもの性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることがないように配慮すること。「男らしさ」「女らしさ」ではなく「その子らしさ」を大切に)
- ・ 子どもの興味や発達にそった遊びの環境づくりを行うこと。
- ・ 安心して見通しをもって生活するために、毎日同じ日課で過ごすこと。幼児は行事もあるが、できるだけ日課をくずさないように配慮すること。
- ・ 着脱をする時は、決められた場所で行い、裸になることは避け、上衣・下衣それぞれ分けて着脱すること。
- ・ 災害時の事を考慮し、室内にいても安全に避難できるように3歳児より上靴を使用する。
0～2歳児については、室内では裸足で生活をするが、避難用の靴を常備し備える。

(2) 乳児保育に関わる配慮事項

- ・ 乳児は疾患への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾患の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行うこと。また、主体的に遊びや生活する力を育てていくために、一人一人の成長過程や気持ちに寄り添った育児(食事・排泄・着脱など)を丁寧に行うこと。
- ・ 保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ、保護者への支援に努めていくこと。
- ・ 担当の保育士等が替わる場合には、子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、職員間で協力して対応すること。
- ・ 遊びを通して感覚の発達を促すために、玩具などは月齢や、発達に応じた適切なものを選び、子どもの興味や関心を踏まえるように配慮すること。また、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、十分に点検を行い、安全な環境を用意すること。

(3) 1, 2歳児の保育に関わる配慮事項

- ・ 感染症にかかりやすい時期であるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を心がけること。
- ・ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行い、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。
- ・ 探索活動が十分できるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れること。
- ・ 子どもの自我の育ちを見守り、その気持ちを受け止めるとともに、保育士等が仲立ちとなつて、友だちの気持ちや関わり方を丁寧に伝えていくこと。
- ・ 情緒の安定を図りながら、子どもの自発的な活動を促していくこと。
- ・ 担当の保育士等が替わる場合には、子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、職員間で協力して対応すること。

(4) 幼児の保育に関わる配慮事項

- ・ 生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付けることの大切さを理解し、適切な行動を選択できるよう配慮すること。
- ・ 子どもの情緒が安定し、自己を十分に発揮して活動することを通して、やり遂げる喜びや自信を持つことができるように配慮すること。
- ・ 様々な遊びの中で、全身を動かして意欲的に活動することにより、体の諸機能の発達が促されることを留意し、子どもの興味や関心が戸外に向くようにすること。
- ・ けんかなどの葛藤を経験しながら次第に相手の気持ちを理解し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮すること。
- ・ 生活や遊びを通して、決まりがあることの大切さに気づき、自ら判断して行動できるよう配慮すること。
- ・ 自然との触れ合いにより、子どもの豊かな感性や認識力、思考力及び表現力が培われることを踏まえ、自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。
- ・ 自分の気持ちや経験を自分なりに言葉で表現することの大切さに留意し、子どもの話しかけに応じるよう心がけること。また、子どもが仲間と伝え合ったり、話し合ったりすることの楽しさが味わえるようにすること。
- ・ 「やってみよう」「知りたい」の経験の積み重ねが主体的な学びへとつながっていくことを理解し、子どもが感じたことや思ったこと、想像したことや知りたいと思ったこと等を様々な方法で創意工夫を凝らし自由に表現したり、試したり、調べたりできるよう、保育に必要な素材や用具を始め、意欲的に遊べる環境の設定に留意すること。
- ・ 不必要に子どもを待たせることのないように、生活から遊び、遊びから生活の流れがスムーズに流れるように日課をくむこと。

7 年間行事

※保育所の年間行事を参照

※その他の行事について

- ・ 誕生日会 ……「一人一人を大切に作る保育」「自尊感情を育む保育」を目指すなかで、誕生日のあり方を考え、月1回の「誕生日会」では誕生日児にとって、既に誕生日を終えた子もいればまだ誕生日が来ていない子もいるので、一斉での誕生日会ではなく、クラス単位で一人一人の誕生日当日にその子が1日主役となりお祝いをする形の誕生会を開いている。
そのため、誕生日当日にクラスでお祝いをする。誕生日当日は、朝にクラスで誕生日の誕生バッジ等をつけてもらう。誕生バッジをつける事で、他のクラスの友だちや保護者からも誕生日であることがわかり、お祝いの声をかけてもらえる。(誕生日が土日祝日、年末年始の場合は保護者や子どもと相談して近い日程でお祝いをする)
- ・ 料理活動 ……食育年間計画を作成し、菜園活動等を取り入れる。